

小西報告「大原孫三郎・總一郎がつくりあげた倉敷の産業システム」へのコメント

Comments for KONISHI Presentation at Opening Celebration Symposium
of VET Institution in NSU(Nagoya Sangyo Univ.)

沼口 博（大東文化大学名誉教授）

Hiroshi NUMAGUCHI: Emeritus Prof. of Daitobunka Univ.

小西氏の発表は岡山県倉敷市に造られた倉敷紡績をはじめとする産業の展開を、紡績工場や職工用の寄宿舍、社宅建設などの関連施設だけにとどまらず銀行、発電所、ガス供給会社、新聞、鉄道さらには奨学会や社会問題研究所、農業奨励のための研究所、病院、図書館、美術館などを含む建築群にまで及んでいたという発表であった。さらに市役所やホテルなど、倉敷の建築群の設計などに関わった建築家の紹介もあり、それらに大原總一郎が関わっていたことなどが紹介された。

倉敷紡績が創業されたのは 1889 年（明治 22 年）で、大原孫三郎がその社長に就任したのが 1906 年という。この時代は世界的に資本主義の勃興期でもあり、イギリスをはじめドイツやアメリカなどにさまざまな企業が勃興し、同時に社会政策的な制度や施設が建設される時期にあり、イギリスの田園都市構想（エベネザー・ハワードがロンドン北部のレッチワースに自立型職住接近型都市を建設）が第一田園都市会社（1903 年設立）により建設された。このような都市計画はドイツや日本にも影響を及ぼし、日本では渋沢栄一親子が田園都市株式会社を設立（1918 年）し、田園調布が 1923 年から分譲された。残念ながら日本の場合は職住接近型都市ではなく、住宅地のための都市計画であった。

産業との関係では、わが国では工場法（1911 年に公布、1916 年から施行）の施行後、児童労働の禁止などを含め、社会政策的な対応が求められた。三井鉱山の炭鉱労働者用の鉱夫社宅なども第一次世界大戦後には二間式で裏庭には花壇や菜園などを楽しめるように改善されていったという（三井鉱山株式会社山野鉱業所の社宅について 池上重廉 北大助教 九州大学学術情報リポジトリ 2020. 3. 25）。

また、武藤山治は鐘ヶ淵紡績の経営に携わり、「経営家族主義」や「温情主義」という立場から職工優遇を最善の投資と考え、1919 年にワシントンで開催された第一回国際労働

会議に使用者代表として参加。武藤はアメリカでの労働者としての経験から、従業員の福利厚生の実現に着手。明治 35 年（1902）に乳児保育所が、明治 38 年（1905）にはドイツの製鋼会社の職工に関する施設をモデルにして「鐘紡共済組合」を設立。ここには退職金、傷病・死亡保険、妊娠中から産後までの様々な保証が盛り込まれ、後に多くの企業がこれに追随するような模範となる組合制度となった。（紡績王から政治家、新聞人に転身したリベラリスト武藤山治（1867－1934）鐘淵紡績『私の身の上話』より p. 72）

さらに北九州地方で 1908 年に明治鉱業株式会社を設立した安川敬一郎は 1909 年に技術者養成機関として明治専門学校（のちの九州工業大学）を開設、翌 1910 年には附属小学校を創設、その後中等教育機関や病院なども建てるなど、職場と社員用住宅、病院、学校などを周りに整備していった。

ドイツではワーマール共和国期に低所得者の生活環境改善のための集合住宅として 1920 年代後半から 1930 年代初頭にかけて建設されたベルリンのモダニズム集合住宅群（桂離宮の紹介で有名なブルーの・タウトも関わった）がある。この時代の資本主義の進歩とそれに伴う社会政策や労働者福祉の実現は世界的な傾向の中で進展していった。

そうした中で大倉孫三郎、總一郎らが取り組んだ産業化の進展が、どのような思想的背景の上に築かれたのかを明らかにすることは重要だと思われる。分散式家族的寄宿舍や田園都市風社宅、御崎社宅、南町住宅などは社会住宅（公共住宅）としての間取りや配置などが工夫されていたのかどうかなど、他企業の社宅群との比較も必要であり、この時代の社会福祉的な水準を明らかにできるものと思われる。シンポジウムの中で三宅章介氏がキリスト教との関係を示唆されていたが、確かに倉敷教会堂の建設は 1923 年とされているので、その影響はあったのかも知れない。また、孫三郎は石井十次（日本最初の孤児院の

創設者）との出会いからキリスト教的な汎愛的思想に影響を受けたのではないかとも言われている。この点なども明らかにして欲しい点でもある。

また、浦部鎮太郎の「四の平櫓構想」は都市計画という範疇に入るものだったのかどうかについても検討の余地が残されているようにも思われる。オスマンによるパリ市街の改造によるシャンゼリゼ通りやオペラ座、ルーブル美術館や家並みの統一と中世の城郭都市（ローテンプルグなど）は全く街づくりの構

想自体が異なったものである。

この時代の企業経営者たちが理想とした社宅や社会福祉的環境（幼稚園や小学校、病院や図書館、集会所など）の整備を目指したのはどのような理念や理想が彼らの背景にあったのかを国内状況における比較だけではなく国際的な状況との比較において明らかにすることは近代資本主義社会の生活と労働、社会福祉等の関係を明らかにしていく上でも大変重要な事だと思われる。その様な視点からは非、整理、まとめて頂きたい。